

## 資料

## 自閉スペクトラム症児者における感覚過敏・鈍麻の実態 (2)

—保護者の対応について—<sup>注)</sup>松田恵子<sup>1)</sup>・一門恵子<sup>2)</sup>・和田由美子<sup>3)</sup>

Hyper- and hypo-reactivity to sensory input in children and adults with autism spectrum disorder (2) : Support by parents

Keiko MATSUDA・Keiko ICHIKADO・Yumiko WADA

ASD 児者の多くは感覚過敏・鈍麻の特性を有するために、生活適応上の困難に直面しがちである。われわれは、保護者を対象として日本版感覚プロフィール短縮版と共に感覚過敏・鈍麻への対応方法についてアンケート調査を実施した。対象は、A大学の療育活動に参加している児童の保護者を中心とした63名であった。ASD 児者の内訳は、男子47名、女子15名、不明1名で、平均年齢14.9歳、範囲は3歳～47歳であった。自由記述回答の分析結果、保護者の対応方法として、「配慮・工夫」「環境調整」「声かけ・予告」「練習・順化」などのカテゴリーが抽出された。保護者の日常的なかかわりの中で編み出された支援策が当事者にとって不快な感覚刺激の軽減、回避に繋がっていることが示唆された。

キーワード：自閉スペクトラム症、感覚過敏、感覚鈍麻、保護者の対応

## I 問題と目的

自閉スペクトラム症 (Autism Spectrum Disorder: 以下 ASD と記す) と診断されている児者は、社会性の障害やこだわりの強さを主症状とするものであるが、同時に感覚過敏や鈍麻の特性を併せもっている (American Psychiatric Association, 2013 日本精神神経医学会日本語版用語監修 2014)。これまでの研究から ASD 児者の80%以上に感覚刺激に対する反応異常が見られることが報告されてきた (Marco, Hinkley, & Hill, 2011)。松田・和田・一門 (2019) は、ASD 児者の保護者を対象とし、日本版感覚プロフィール短縮版を用いて ASD 児者の感覚過敏・鈍麻の実態について調査を行った。その結果、「触覚過敏性」「低反応・感覚探求」「聴覚フィルタリング」など、7セクション中6セクションにおいて、

60%以上の ASD 児者が感覚異常を示すことが確認された。

高橋・増淵 (2008) は、ASD 児・者の触覚過敏性に由来する「人に触れられた時の過剰な反応」が、ASD 児者が周囲との人間関係を築く上での障害になっている可能性を指摘している。また、松田・和田・一門 (2019) は、ASD 児者に特徴的な行動傾向と感覚過敏・鈍麻の間には相関が見られることを報告している。例えば、初めての場所などは苦手である、にぎやかな場所は苦手である、集団参加が苦手であるなどの「こだわりと認知の偏り」に関連する因子は「視覚・聴覚過敏性」や「動きへの過敏性」など、感覚過敏に関連する項目との相関が高かった。一方、独り言が多い、落ち着きがない、一人遊びが多い、など「常同的言動と孤立」に関連する因子では、「低反応・感覚探求」など感覚鈍麻に関連する項目との相関が高かった (松田・和田・一門, 2019)。これらのことから、ASD 児者に特有の行動傾向の一部が、ASD 児者における感覚過敏や感覚鈍麻を背景として生じている可能性が示唆される。

岩永 (2010) は、感覚過敏のある ASD 児にど

<sup>1)</sup> 元熊本県心理判定員 (嘱託)

2017年度九州ルーテル学院大学大学院人文学研究科修了 kumamon.150220@gmail.com

<sup>2)</sup> 九州ルーテル学院大学名誉教授

<sup>3)</sup> 九州ルーテル学院大学人文学部心理臨床学科

んな支援を考えるべきかについて、まずアセスメントの段階で感覚過敏を見落とさないことが重要であり、ASD児の感覚過敏について親や支援者がよく知ることが必要で、ASD児に見られる感覚過敏を把握し、支援を考案するために、活動場面での観察、標準化された検査、本人や保護者からの聞き取り、環境要因に関するアセスメントが必要であると述べている。また、それらの対応として聴覚過敏には、耳栓、イヤーマフなどを用意しておき、必要に応じて用いること、視覚過敏のある子どもにはサングラスや色つきの眼鏡を試す、触覚過敏の子どもには不快が起りにくい素材の服を選んだりすることの必要性についても言及している。しかし、当事者や保護者が実際にどのように対応しているかについての研究報告は十分とは言えず、ASD児者の感覚過敏・鈍麻への具体的対応についての知見の蓄積が必要であろう。

本研究では、ASD児者の保護者に対し、ASD児者の感覚過敏・鈍麻に対する保護者が具体的にどのような対応を行っているかについて調査することにより、感覚過敏・鈍麻に対する効果的な対応のあり方について検討することを目的とする。

## II 方法

### 1. 対象者

2017年7月～9月にA大学の療育活動に参加しているASD児ならびにB県内在住のASD児者の保護者合計79名に無記名の質問紙を配布・郵送し、その場または郵送で73名分を回収した（回収率92.4%）。このうち、回答に不備が見られた10名分を除いた63名分（有効回答率79.7%）を分析対象とした。ASD児者の性別は、男性：47名、女性：15名、無記名：1名で、年齢は、 $M=14.9$ 歳（ $SD: 9.07$ , range 3～47歳）であった。

### 2. 調査手続き

Dunn (1997) の Sensory Profile の日本版感覚プロフィール短縮版 (Dunn 著, 辻井日本版監修, 2015) を用いた。この尺度は、以下の7セクション、計38項目から構成され、「いつも (5点)」「しばしば (4点)」「ときどき (3点)」「まれに (2点)」「しない (1点)」の5件法で回答を求めた。各セクションにおいて「いつも」または「しばしば」にチェックした回答者に対し、それらの傾向

に対する保護者の対応について自由記述による回答を求めた。以下に7セクションを示す。

- ①触覚過敏性 (7項目)：日常生活における触覚に対する子どもの反応
- ②味覚・嗅覚過敏性 (4項目)：日常生活における味やにおいに対する子どもの反応
- ③動きへの過敏性 (3項目)：日常生活における動きに対する子どもの反応
- ④低反応・感覚探求 (7項目)：日常生活における感覚に関する出来事に子どもが反応する程度
- ⑤聴覚フィルタリング (6項目)：日常生活において音を使ったり遮断することに関する子どもの能力
- ⑥低活動・弱さ (6項目)：日常生活における子どもの筋肉を使う能力
- ⑦視覚・聴覚過敏性 (5項目)：日常生活における音と視覚情報に対する子どもの反応

なお、本調査と同時に、同一の保護者を対象として、ASD児者の行動特性と感覚過敏・鈍麻の関連についての調査も実施した。論文の規定枚数の都合により、この結果については、松田・和田・一門 (2019) 「自閉スペクトラム症児者における感覚過敏・鈍麻の実態 (1) - 自閉スペクトラム症児者の行動特性との関係 -」で報告する。

### 3. 自由記述の分析方法

自由記述のデータをセクションごとにKJ法によりカテゴリー化し、まとめた結果を表1～7に示す。まず、得られた自由記述データに回答者番号をつけ、内容のまとまりで切片化し、切片化したデータを簡潔に要約した (表1～7)。次に、類似した「内容」をまとめて「小カテゴリー」とし、類似した「小カテゴリー」をまとめて【大カテゴリー】を編成した。「小カテゴリー」としてまとまらなかった「内容」は分析から除外した。データの要約とカテゴリー化は著者松田と臨床心理士の共著者一門の2名で行った。

## III 結果

保護者によって報告された感覚過敏に対する支援方法について、抽出されたカテゴリーを中心に、以下に感覚プロフィールの7つのセクションごとに記述する。

表 1. 触覚過敏性への対応

大カテゴリー	小カテゴリー	件数	内容例
意志の尊重	本人に任せる	3	心の準備をすることでできる
			今は本人で対応している時はそのまま様子を見ている
声かけ・予告	声かけによる予告	10	散髪、爪切りは前もって日時を決めておく。ご褒美があると頑張れる 急に触れられると嫌がるので、事前に声かけをする 衣服などを整えるのを手伝う時は、必ず声かけをして触る
	身体接触へ注意	7	人とすれ違ったとき、再度さわいいじるので注意する 触れることは無理と相手に伝える
配慮・工夫	衣類などの工夫	14	冬でも冷感タイプのシーツを敷く
			下着のランニングを嫌がるので着せない
			なるべく柔らかい手触りの服を買う タグが不快感で気になるので、ハサミで丁寧にカットする
混雑は避ける	2	人の多い所、列には並ばない トイレは空いているところを探す	
濡れたらすぐ拭く	6	すぐにタオルで拭かせる 水がかからないところへ逃げるか、タオルで拭く 濡れたタオルで顔を拭く	
練習・順化	散髪・爪切りの工夫	4	爪切りは素早く
			爪切り赤ちゃん用のハサミなら慣れた
			散髪は母親が切る
素足に慣らす	5	砂地で先に親がやってみせ、少しずつ慣らすと最終的にはできた	
		運動会で裸足にならないといけないときは、計画的にスモールステップで慣らす	
練習で慣らす	6	洗顔をスモールステップで練習している 散髪の練習を数回に分けて練習した 列の少ない場所から並ばせる練習を繰り返す	

(1) 触覚過敏性への対応（表 1）

触覚過敏性に対する保護者の対応は、【意志の尊重】【声かけ・予告】【配慮・工夫】【練習・順化】の大カテゴリーに分類された。

【意志の尊重】は、小カテゴリー「本人に任せる」で、「心の準備をすることでできる」「本人で対応している時はそのまま様子を見る」などの内容が含まれた。

【声かけ・予告】は、小カテゴリー「声かけによる予告」「身体接触へ注意」によって構成された。具体的な内容としては、「散髪、爪切りは前もって日時を決めておく」「急に身体に触れずに事前に声かけをする」「衣服などを整えてやる時は、声かけをしてから触る」「他人に触るので注意する」などが挙げられた。

【配慮・工夫】は、「衣服などの工夫」「混雑は避ける」「濡れたらすぐ拭く」の小カテゴリーから生成された。衣服などに対しては、「冷感タイプのシーツを敷く」「柔らかい手触りの服を買う」「衣服のタグは切り取る」、また、混雑には「人の

多い列には並ばない」「人の少ないトイレを探す」などの報告がされた。

【練習・順化】は、小カテゴリー「散髪・爪切りの工夫」「素足に慣らす」「練習で慣らす」をまとめたものである。爪切り、散髪には、「爪切りは素早く」「散髪は母親が切る」、また、慣らすことに関しては、「計画的にスモールステップで素足に慣らす」、練習の内容としては、「洗顔をスモールステップで練習」「散髪を数回に分けて練習」「列に並ぶ練習」などの対応が挙げられた。

(2) 味覚・嗅覚過敏性への対応（表 2）

味覚・嗅覚過敏性に対する保護者の対応は、3つの大カテゴリー【意志の尊重】【配慮・工夫】【練習・順化】に分類された。

【意志の尊重】は、小カテゴリー「本人の食べ方の尊重」「本人の選択で準備」によって構成された。「臭いを嗅いでから食べる」「味を変える」「何を食べるか本人が決める」などの報告に拠るものである。

表2. 味覚・嗅覚過敏性への対応

大カテゴリー	小カテゴリー	件数	内容例
意志の尊重	本人の食べ方の尊重	3	臭いを嗅いで、好き嫌いの判断をし、小さめに切って気に入ると自分から食べる 味を変えるのが好き
	本人の選択で準備	3	何を食べるか本人と決める 本人に聞いて準備する
配慮・工夫	冷ましてから食べさせる	4	冷ましてから食べるのを待つ 飲み物は冷たくして飲ませている（ぬるいと気分が悪くなる）
	調理法を工夫	7	細かくしたり火を通したりすると食べられる場合もある 肉を入れない 肉を噛みやすくする
	無理に食べさせない	3	無理して食べさせない 食べたくないものは無理して食べないでいいと考える
練習・順化	食べさせる工夫	7	食べられるものを見つけ、モデリングしながら好きなものを食べさせる あきらめずに声かけをして、時間をおいてから食べさせる
	一口からチャレンジ	3	麦ごはんは一口食べるをしている 果物は一口だけ食べる

表3. 動きへの過敏性への対応

大カテゴリー	小カテゴリー	件数	内容例
自己防衛	危険な動きや場所には注意	2	苦手な場所は使わない 不安定・危険な動きは自分ではやらない
配慮・工夫	階段は手すり・手で支える	4	階段を下りるときは、手を繋ぐ 階段の上り下りするとき手を支えて安心させる
練習・順化	歩行・前転など練習する	5	高いところの遊具に登れるように練習

【配慮・工夫】には、小カテゴリー「冷ましてから食べさせる」「調理法を工夫」「無理に食べさせない」によって構成された。記述内容としては「肉を入れない」「肉を噛みやすくする」などが含まれた。

【練習・順化】は、小カテゴリー「食べさせる工夫」「一口からチャレンジ」によって構成された。「モデリングしながら好きなものを食べさせる」「あきらめずに声かけをして、時間をおいてから食べさせる」などの食事における工夫が報告された。「麦ごはんは一口食べる」「果物は一口だけ食べる」などの一口チャレンジ策がとられている。

### (3) 動きへの過敏性への対応 (表3)

動きへの過敏性に対する保護者の対応は、大カテゴリー【自己防衛】【配慮・工夫】【練習・順化】に分類された。

【自己防衛】には、小カテゴリー「危険な動きや場所には注意」で、「苦手な所は使わない」「不

安定・危険な動きは自分ではやらない」の防衛策がとられている。

【配慮・工夫】は、小カテゴリー「階段は手すり・手で支える」で、「階段を下りるときは、手を繋ぐ」「階段の上り下りするとき手を支えて安心させる」などの手を添えた支援がされている。

【練習・順化】には小カテゴリー「歩行・前転など練習する」で、「高いところの遊具に登れるように練習」などの練習が目指されている。

### (4) 低反応・感覚探求への対応 (表4)

低反応・感覚探求に対する保護者の対応は、大カテゴリー【意志の尊重】【環境調整】【声かけ・予告】【配慮・工夫】【練習・順化】に分類された。

【意志の尊重】は、小カテゴリー「本人の興味の活用」で、「iPadでYouTubeを楽しんでいる」「DVD、TV、CDを視聴」などの本人主体の対応がみられた。

【環境調整】には、小カテゴリー「余分な刺激

表 4. 低反応・感覚探究への対応

大カテゴリー	小カテゴリー	件数	内容例
意志の尊重	本人の興味の活用	4	iPad で YouTube につないで音を楽しんでいる
			DVD, TV を見たり, CD を聞く
環境調整	余分な刺激を抑制	2	なるべく静かに待つ
			パーテーションで仕切る
声かけ・予告	声かけで行動修正を	9	本人に伝え, 身を整えてもらう
			座ろうと声をかける
			公共の場では静かにするように言うと, 短時間ではあるが軽減される
配慮・工夫	意識を他に向ける	7	目移りする時は興味をひいたり, 感覚をいったんリセットしたりする
			何かに執着している時は, もっと興味を引くようなものを目の前に持ってくる
	邪魔しないなど 家族が配慮	3	じっと座れない時は目的行動をとらせる
			落ち着いている時は邪魔をしないようにしている
練習・順化	日常生活で 繰り返し訓練	4	火災報知器とサイレンの音のマネは笑わないようにしている
			じっとすることの練習をする 今はマナーを教える段階と考える

表 5. 聴覚フィルタリングへの対応

大カテゴリー	小カテゴリー	件数	内容例
意志の尊重	好みの音楽を聴く	2	イヤホンで好みの音楽を聴く
	本人の興味の活用	2	日ごろから音楽・ラジオを聴かせたりする 自分が興味があるものであれば集中できる
環境調整	音刺激の遮断	16	イヤーマフ
			食事をなかなかしない時は TV や DVD を消す
			TV を消して宿題をさせる 100均の耳栓は常にポケットの中
	視覚的環境の整備 など	15	机にはなるべく物を置かない
視野に入るものは少なくする 余計なものではできるだけ排除 集中できる部屋作りや机のまわりは必要なもの以外置かないなどの工夫			
静かな場所へ移動	10	早めに静かな所へ移動	
		静かな場所へ移動する 大切なことは静かな中で教えたほうがよい 別の場所に移る	
声かけ・予告	声かけによる予告	6	本人に声かけをして, 見通しをもたせるようにする
			「お話を聞いてください」と前置きしてから, 短文でわかりやすく話す
配慮・工夫	クールダウン	3	クラスなどで我慢できなかったら, 教室の外に出る 現在小学校ではトイレでクールダウン
練習・順化	ごほうび	2	宿題が終わったらご褒美

を抑制」で、「静かに待つ」「パーテーションで仕切る」などの対応がとられている。

【声かけ・予告】は、小カテゴリー「声かけで行動修正を」で、「本人に伝えて身を整えてもらう」「座ろうと声をかける」「公共場では静かにするように言う」などの声かけレベルでの行動コン

ロールがされている。

【配慮・工夫】には、小カテゴリー「意識を他に向ける」「邪魔しないなど家族が配慮」によって構成された。「目移りする時は興味をひいたり、感覚をいったんリセットしたりする」「じっと座れない時は目的行動をとらせる」並びに「落ち着



表 6. 低活動・弱さへの対応

大カテゴリー	小カテゴリー	件数	内容例
運動・療育	体力・筋力の向上を図る	16	放課後デイやトランポリンに通う
			トレサポ（週3回）
			支援者との散歩で運動量を増やしている
			スイミングや体幹を鍛えるためのスポーツ（療育） 歩行や軽い筋トレを継続
配慮・工夫	緊張・疲労の緩和	2	金魚運動やアロマオイルでマッサージ 休みをまめに入れる

表 7. 視覚・聴覚過敏性への対応

大カテゴリー	小カテゴリー	件数	内容例
意志の尊重	本人の意志の尊重	8	光がづらい時は本人にどのくらいが良いか聴く 洗濯機の音が苦手自分でスイッチを切る 本人がしたいようにさせる
声かけ・予告	音刺激などの予告	6	予告ができるときは前もって伝える ここは大丈夫と教えておくと自分から避難する 事前に教えられることは事前に教えておく
	「大丈夫」と声かけ	2	音でびっくりして不安になるので「大丈夫！」と伝える 「大丈夫よ！」と声をかける
自己防衛	音刺激を遮断	6	イヤーマフを使用 運動会は耳栓で対応 あらかじめ分かっている花火の音などは音を避ける
	光刺激の回避	2	光はサングラスをいつでもかけられるようにする
	耳をふさぐなど自己防衛	5	自分で耳を塞いで我慢できるようになった 耳を両手やタオルで覆う
課題集中	集中できる課題の提供	7	集中力をつけるため紐通しなどをさせている バランスボールに乗ってDVDを見せる 意識を違うものに向ける

いている時は邪魔をしないようにしている」などが報告され、感覚のリセットや目標行動の選択など、熟練した対応がとられている。

【練習・順化】は、小カテゴリー「日常生活で繰り返し訓練」とし、「じっとすることの練習をする」「マナーを教える段階」など、日常的訓練の有効性が示された。

(5) 聴覚フィルタリングへの対応 (表 5)

聴覚フィルタリングに対する保護者の対応は、大カテゴリー【意志の尊重】【環境調整】【声かけ・予告】【配慮・工夫】【練習・順化】に分類された。

【意志の尊重】は、小カテゴリー「好みの音楽を聴く」<本人の興味の活用>によって構成されたが、「イヤホンで好みの音楽を聴く」「自分が興味のあるものであれば集中できる」など、本人主体の聴覚刺激を楽しむ活動に切り換えられている。

【環境調整】には、小カテゴリー「音刺激の遮

断」<視覚的環境の整備など><静かな場所へ移動>によって構成された。聴覚刺激への対応には「イヤーマフを使用」「食事中はTVやDVDを消す」「TVを消して宿題をさせる」「耳栓を常にポケットに」などの不快刺激の回避策がとられている。また、視覚刺激への対応としては、「机にはなるべく物を置かない」「視野に入るものは少なくする」「余計なものはできるだけ排除」などの視覚的雑刺激を排除する対策がとられている。さらに、耐性閾値を超えるレベルの音刺激に対しては、「早めに静かな所へ移動」「大切なことは静かな所で教える」「別の場所に移る」などの空間移動策がとられている。

【声かけ・予告】は、小カテゴリー「声かけによる予告」で、「声かけをして、見通しをもたせる」「『お話を聞いてください』と前置きをする」などのバーバルなレベルでの対応がされている。

【配慮・工夫】は、小カテゴリー「クールダウン

ン」で、「教室の外に出る」「小学校のトイレでクールダウン」など、学校生活においても個に応じた配慮がなされていることが窺える。

#### (6) 低活動・弱さへの対応（表6）

低活動・弱さに対する保護者の対応は、大カテゴリー【運動・療育】【配慮・工夫】に分類された。

【運動・療育】には、小カテゴリー≪体力・筋力の向上を図る≫で、「トランポリンに通う」「トレサポ（週3回）」「散歩で、運動量を増やす」「スイミングや体幹を鍛える（療育）」「歩行や軽い筋トレを継続」など、運動トレーニングが多く取り入れられている。

【配慮・工夫】には、小カテゴリー≪緊張・疲労の緩和≫には、「金魚運動やアロマオイルでのマッサージをする」といった治療的支援が含まれた。

#### (7) 視覚・聴覚過敏性への対応（表7）

視覚・聴覚過敏性に対する保護者の対応は、大カテゴリー【意志の尊重】【声かけ・予告】【自己防衛】【課題集中】に分類された。

【意志の尊重】は、小カテゴリー≪本人の意志の尊重≫で、「本人にどのくらいの光が良いか確認する」「苦手な洗濯機の音はスイッチを自分で切る」など、自身で不快刺激の調節・排除をする手立てがとられている。

【声かけ・予告】は、小カテゴリー≪音刺激などの予告≫≪「大丈夫」と声かけ≫によって構成された。「前もって伝える」「事前に教えておく」という予告、並びに、音刺激に対して『「大丈夫」と声をかける』などの心理的支援がされている。

【自己防衛】は、小カテゴリー≪音刺激を遮断≫≪光刺激の回避≫≪耳をふさぐなど自己防衛≫によって構成された。音刺激に対しては、「イヤーマフを使用」「運動会は耳栓で対応」「あらかじめ分かっている花火の音などは音を避ける」、また、光刺激に対しては、「サングラスをかける」などの対応が報告された。自己防衛として、「自分で耳を塞いで我慢できるようになった」「耳を両手やタオルで覆う」などが、不快な聴覚刺激の回避策として取られている。

【課題集中】には、小カテゴリー≪集中できる

課題の提供≫で「紐通しなどをさせる」「バランスボールに乗ってDVDを見せる」など、課題集中によって不快刺激の軽減が図られている。

以上、ASD 児者の感覚過敏・鈍麻の特性に対する保護者の対応方法として、触覚、味覚、聴覚、視覚、体性感覚（動き）などの感覚刺激の種類全般に共通して、【意志の尊重】【配慮・工夫】【声かけ・予告】【自己防衛】【環境調整】【運動・療育】【練習・順化】【集中課題】の8つの大カテゴリーが抽出された。

## IV 考察

### 感覚過敏・鈍麻に対する保護者の具体的な対応方法について

ASD 児者の感覚過敏・鈍麻に対する保護者の具体的な対応方法は、対応方法が多い順に列記すると、【配慮・工夫】（55件）、【環境調整】（43件）、【声かけ・予告】（40件）、【練習・順化】（36件）、【意志の尊重】（25件）、【運動・療育】（16件）、【自己防衛】（15件）、【課題集中】（7件）となった。

#### (1) 【配慮・工夫】について

ASD 児者の感覚過敏・鈍麻に対する保護者がとっている対策として、触覚過敏性に対しては衣類を選ぶ、味覚過敏に対しては調理法を工夫するなどが報告された。触覚・嗅覚・味覚などの近接感覚に対しては、保護者がASD 児者と日々接する中で彼らの反応を確認しながら編み出された支援方法がとられており、保護者の愛情と努力によってASD 児者の不快刺激に対するストレス軽減が図られていると言えよう。

#### (2) 【環境調整】について

遠感覚の代表とも言える聴覚刺激に対して、静かな場所への移動やTVの消去などの環境調整の方法が最も多くとられている。視覚刺激に対しても不要な雑刺激の撤去などの対策がとられている。熊谷（2017）は、活動をエリアごとに分けるSchoplerらの構造化の技法も、ASD 児者の感覚過敏に対する配慮から編み出された方法であり、ASD 児者には、幼少期から静かな生育環境を保障することが求められると述べている。

#### (3) 【声かけ・予告】について

多くのASD 児は、見通しが持てない状況では

情緒が不安定になりがちであるため、感覚刺激が与えられる状況、刺激の内容、いつまで持続するかなどをわかりやすく提示する必要があると述べている(岩永, 2017)。本研究の保護者による対応でも、「大丈夫!」と声かけする、抵抗の強い爪切り・散髪などは必ず予告すると報告されている。ASD 児者が行動する前に事前に何をするかを伝え、先の見通しを与えることによって本人に構えが形成されて、安心して行動できるように対応されており、【声かけ・予告】の必要性が示唆された。

#### (4) 【練習・順化】 【運動・療育】 について

ASD 児者の感覚過敏・鈍麻に対する保護者の対応の中には、〈日常生活で繰り返し訓練〉して感覚過敏・鈍麻の改善を試みたり、〈歩行・前転などを練習する〉ことによって動きへの過敏性に対応したり、〈体力・筋力の向上を図る〉ことで低活動・弱さに対応しようとする試みなどが認められた。日常生活においてスモールステップで感覚刺激に慣らしていく方法がとられている。環境調整によって刺激の軽減、除去を図ると同時に、ASD 児者の反応を観察しながら、無理のない範囲で刺激に対して順化させる試みも取られる必要がある。

#### (5) 【意志の尊重】 【自己防衛】 について

自身で好みの音楽を聴く、不快刺激は自身でスイッチを切るなどの本人主体の解決が、少数ではあるが報告された。ASD 児者の成長に伴って徐々に信頼関係が形成され、周囲は見守りにとどまり、このような解決策がとられることが望まれる。

#### (6) 【課題集中】 について

何らかの課題に集中することによって不快刺激の回避ができることは望ましい対応方法であり、本人の満足感にもつながるものであろう。

### まとめ

本研究の結果から、ASD 児者の感覚過敏・鈍麻の特性に対して、保護者は、【配慮・工夫】 【環境調整】 【声かけ・予告】 など、さまざまな配慮や工夫をしながら対応していることが明らかになった。ASD 児者の感覚過敏性への対応は、本人自身よりも保護者の支援に依存していることが示唆された。

本研究では ASD 児者の感覚過敏の実態とその対応策について、保護者を対象とした調査を行ったが、保護者の対応だけでなく、教育機関や福祉施設などの関係機関においても個に応じた総合的な見方での対応が必要と考えられる。

注：本稿は、松田恵子の2017年度九州ルーテル学院大学大学院人文学研究科修士論文の一部を加筆修正したものである。

### 謝 辞

本研究の調査にご協力いただきました B 県内在住の ASD 児者の保護者のみなさまに感謝申し上げます。

### 引用文献

- American Psychiatric Association. (2013). Diagnostic and statistical manual of mental disorders. Fifth Edition: DSM-5. Washington, D.C: American Psychiatric Association. (日本精神神経医学会日本語版用語監修 高橋 三郎・大野 裕監修 染谷 俊之・神庭 重信・尾崎 紀夫・三村 将・村井 俊哉訳 2014 DSM-5 精神疾患の診断・統計マニュアル 医学書院)
- Dunn, W. 著 辻井 正次 日本版監修 (2015). SP 感覚プロファイル 日本文化科学社
- 岩永竜一郎 (2010). 感覚過敏と不安 アスペ・ハート, 9(26), 86-89.
- 岩永竜一郎 (2017). 感覚過敏のある子への理解 - 発達障害のある子への支援の具体的な方法 児童心理, 12, 41-47.
- 熊谷高幸 (2017). 自閉症と感覚過敏 新曜社
- Marco, E.J., Hinkley, L.B., Hill, S.S. (2011). Sensory processing in autism: a review of neurophysiologic findings. *Pediatric Research*, 69, 48-54.
- 松田恵子・和田由美子・一門恵子 (2019). 自閉スペクトラム症児者における感覚過敏・鈍麻の実態 (1) 九州ルーテル学院大学紀要論文集 心理・教育・福祉研究, 18. (印刷中)
- 高橋 智・増渕美穂 (2008). アスペルガー症候群・高機能自閉症における「感覚過敏・鈍麻」の実態と支援に関する研究 - 本人へのニーズ調査から - 東京学芸大学紀要 総合教育科学系, 59, 287-310.

(受稿：12月3日, 受理：2月12日)



## Hyper- and hypo-reactivity to sensory input in children and adults with autism spectrum disorder(2): Support by parents

Keiko MATSUDA · Keiko ICHIKADO · Yumiko WADA

Persons with autism spectrum disorder often show maladaptive behavior because of hypersensitivity and insensitivity. We investigated about supports for these persons by parents for such sensory problems of them by using Japanese version of the short sensory profile. Subjects were 63 mothers of persons with ASD. The ASD group included 47male, 15female, gender unknown 1, age: mean 14.9, range3- 47. Analyzing free descriptions about supports we classified them into such categories as 'care/idea', 'environmental arrangement', 'talking/noticing', 'training/habituation.' It was suggested that mothers tried strategies they devised through their daily living in order to reduce or avoid uncomfortable stimuli for their children with ASD.

**Key words:** autism spectrum disorder, hyper-sensitivity to sensory input, hypo-sensitivity to sensory input, support by parents